

□■受験対策ミニ講座 24 号 2021□■ (養成所ニュースプラス第 30 号)

今年は例年になく春の訪れが早いようです。国家試験の合格発表から 2 週間、みなさま落ち着きを取り戻されたでしょうか。今回、桜の咲いた方、おめでとうございます。合格は「終わり」ではなく、「はじまり」です。登録を済ませたら、一日も早く社会福祉士会に入会して、社会福祉士としてのスタートを切ってください。来年に向けて決意を新たにしている方、「もう一回、学習のチャンスを得たこと」を大切に、新しく出発しましょう。養成所はみなさんを応援し続けます。

お知らせ

令和 2 年度修了者 (第 33 回国家試験受験対象者) に国家試験等に関するアンケートを発送しております。

アンケート集計結果は、厚生労働省への報告が義務付けられているため、必ずご回答及びご返送をお願いいたします。

※ご返送のない方には、直接お電話等で伺う場合があることをご了承ください。

※国家試験の個別の可否状況につきましては、ご本人からの報告がない限り、本養成所での把握が難しいため、次年度以降試験に合格された方も必ず本養成所までお知らせください。今回、可否が変わった方もご一報ください。

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第 33 回国家試験合格発表

詳しくはこちら→<http://www.sssc.or.jp/index.html>

◇概要◇

受験者数 35,287 人

合格者数 10,333 人

合格率 29.3 %

さらに詳しくはこちら (厚生労働省 HP) →https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17192.html

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟より国家試験過去問題等のご案内です。

詳しくはこちら→<http://jaswe.jp/>

■Plus Column

【未来を見据えて再出発を】

「日曜日の夜 8 時。多くの日本人は重々しいフルオーケストラの長い、長い演奏の後に、チョンマゲや日本髪を結ってキモノを来た人たちが登場する TV ドラマを観る」

海外からやってきた人は、日曜の夜、放映される NHK の大河ドラマを視聴する日本人の姿に首をかしげる、という話を聞いたことがあります。確かに、西洋風の音楽を聴きながら“サムライドラマ”に没入していくことに違和感を覚える気持ちもわからないではありませんが、子どもの頃からこの習慣を続けている人も多いのではないのでしょうか。

2021 年の大河ドラマの主人公は、幕末から昭和にかけて活躍した実業家渋沢栄一 (1840~1931) です。たくさんの企業の創設に関わった渋沢栄一は、「日本資本主義の父」と言われ、帝国ホテルや日本銀行の前に銅像があります。生家のある埼玉県深谷市と長く暮らした東京都北区の飛鳥山では、「大河ドラマ館」がオープンするなど、観光による経済効果も期待されているようです。

「渋沢は晩年、社会事業に貢献した」と紹介されることが多いようですが、総合的な医療・福祉施設である「養育院」には創立の頃から深く関わり、36 歳から 91 歳までの長きにわたって、事務長や院長の職にありました。「養育院」に対する東京府からの公的な援助が打ち切られて財政難に陥った時期、渋沢は「このような施設は先進国には必ずあり、公が責任を持つべき」と訴えて、資金集めに奔走し、公営化を求める建議書を提出しました。その後、「養育院」は東京市・東京都が運営することとなり、現在は「地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター」(東京都板橋区) となっていて、ここには椅子に腰かけた晩年の渋沢像があります。

「養育院」設立のきっかけは、1187（明治5）年ロシアの皇子の来日を控えて「帝都の美観」を整えるために、「乞食・行路病人・捨子」などが一か所に集められたことでした。そこから様々な生活に困窮する人々のための救済施設が分化して、後に東京都が運営する多くの病院や福祉施設の母体となり、日本の医療・福祉の歴史に大きな足跡を残しました。

渋沢は、1908（明治41）年に創立された「中央慈善協会」の初代会長でもあり、廃娼運動の山室軍平や教護院を創設した留岡幸助、岡山孤児院の石井十次らとも交流がありました。1921（大正10）年には「石井亮一君（滝乃川学園長）は事業に専念するように」と述べて、知的障害児施設滝乃川学園の理事長を引き受けたというエピソードもあります。今回の大河ドラマでは社会事業家としての渋沢のこのような一面が、どこまで、どのように描かれるのか、注目したいと思います。

コロナ禍という歴史に残る年をみなさんと共に歩んできた1年余り。今回の国家試験等に関するアンケートには、「毎週金曜日が楽しみだった」「モチベーションを保つ上でとても役に立った」「励ましの言葉、労いの言葉に支えられた」等々、うれしい感想をたくさんいただきました。ありがとうございました。

東京2020オリンピックの聖火リレーも人々のさまざまな思いの中でスタートしたようですが、間違いなく歴史の一頁を共に生きている私たち。きっとまた、どこかでお会いすることがあると思います。どうか、みなさま、お元気で今後ともご活躍ください。

○32期生の方は、今後も事務連絡等を配信しますので、再登録の必要はありません。32期以外の方で引き続き、配信を希望される方は、ホームページから改めてご登録ください。

○次年度以降、国家試験の合否については、ご本人からの報告がない限り、本養成所で把握することができません。国家試験に合格された方は、必ず養成所までご一報ください。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus